

# ヒゲ入門 個性を伸ばせ

⑤

ビジネスパーソンの着こなしを提案するスタイリストの橋本ワコさんに、ヒゲ姿のおしゃれ術を聞いた。面長の私の顔をしげしげと見た橋本さん、「銀縁の眼鏡を、

黒縁に替えたほうがいい。顔の下半分が黒色のラインを強調している。上半分も黒のラインを入れれば、顔全体が引き締まる」と教えてくれた。

黒縁は遠近両用のスベアの眼鏡を持っているが「それはフレームが横長のスクエア型。

ウェリントン型といって、丸型で太い黒縁の方が似合う」。清潔感は保っているとはいえ、ヒゲで遊び心を演出しているぶ

ん、きちんとした着こなしが求められるそうだ。これからの本格的な秋に向けて、白いワイシャツに縦じまのネクタイ、スーツは濃紺のものを羽織れば好印象間違いなしという。

ウェリントン型の眼鏡をおつらえるかどうかは家計を握る妻へ要相談。9月初旬、スーツで正装した姿を、取材でお世話になっていた女性2人に見てもらった。都内の事業所で社長秘書をする金沢寛子さん(36)は開口一

番「若返りましたね」。続けて「顔がシャープになった。スーツとマッチして身だしなみに気が使っている感じがする」。社

## 学・験・体



女性の気遣いを感じつつ、好感触に胸をなでおろす

### 女性から相次ぐ高評価よし！

#### 振る舞いダメ出し 娘は辛辣

おおむね好感触だった。「みんな気を使ってくれているな」。心優しい女性たちに感謝するばかりだ。

中高年の反応は違った。なじみの理髪店の女性店主(65)は「会社で偉くなったのね」。すし店のマスター(73)は「貫禄がついたな」。女性店主にヒゲでだれを連想するか聞いたところ、三船敏郎が演じた医者「赤ひげ」。マスターは田中角栄だった。シニアにとってヒゲとは

ヒゲのチクチクした感じが気になるようで「あまり私に近づかないで」と言われてしまった。18歳の長女はどうだろう。妻

と同様の反応だろうと考えていたが、返ってきたのは「仕事で見栄えをいろいろ変えても、肝心の家の中で何も変わっていない」という強烈なカウンスターパンチ。こういうことだ。夏場の休日は上半身裸、下半身はパジャマ姿でテレビを見ながらゴロゴロ。思春期の娘の前での振る舞いとは自分でも信じがたい。

会人2年生の平野芳さん(23)は、「手入れの具合が作り込んだ印象がなくてワイルド」とコメントしてくれた。

それまでも、機会があるたびに若い女性に感想を聞いたが、

威厳があるもの、権威の象徴と映るらしい。

家族の反応も気になる。妻は「まあ、いいんじゃないの」。ダメとは言わなかったので、理解を示したと解釈した。ただ、

で耳打ちされた。反論できない。自分を変える新たな挑戦が始まったのはいうまでもない。

（この連載は保田井建へ53）

が担当しました

### ひと言

「冬、ヒゲは口元を温める」と取材先で聞いた。デザインを含めて、四季折々のヒゲ模様を楽しんでみたい。